

統計トピックス

1 月 急速に少子高齢化 ― 将来推計人口（2002年 1 月推計）

厚生労働省の付属機関である国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計人口によると、日本の総人口が2006年の1億2,774万人をピークに減少に転じ、2050年には1億60万人になると推計した。

将来推計人口は、国勢調査などにに基づき5年に一度見直されているもので、出生率は2050年には、前回1997年推計時の1.61人を大きく下回る1.39人になると予測している。今回の推計では、結婚しても子供をつくらない夫婦が増えていることや、一生結婚しない女性が増えていることを踏まえた結果、前回推計で長期的には回復するとされた出生率の引き下げにつながった。

また、2000年に2,200万人だった65歳以上の人口は、2050年には3,586万人に増え、平均寿命は2000年で男女それぞれ77.64歳、84.62歳だったが、今回の推計では50年後には男性が80.95歳、女性が89.22歳になるとしており、今後、少子高齢化が急速に進むと予測されている。

2 月 遊園地・テーマパーク等の売上高増加 ― 特定サービス産業動態統計調査速報

経済産業省が発表した2001年の特定サービス産業動態統計調査速報によると、個人向けサービスの売上高増加のベスト3は「遊園地・テーマパーク」、「外国語会話教室」、「映画館」となった。

「遊園地・テーマパーク」は、東京ディズニーシー、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの大型レジャー施設が首都圏、関西に誕生したこともあり、前年比21.6%増と最も増加率が高かった。また、「外国語会話教室」は企業の外資提携が進んで職場が「国際化」したこともあり3.3%の増加、「映画館」は3.2%の増加となった。その他に増加した業種では、「葬儀業」2.6%増、「劇場・興行場、興行団」1.4%増、「パチンコホール」0.4%増、「フィットネスクラブ」0.1%増となっている。

逆に売上高が減少したのは「結婚式場」9.0%、「ゴルフ場」6.7%、「ゴルフ練習場」6.3%、「ボウリング場」3.8%、「カルチャーセンター」3.1%の減少となり、調査対象12業種のうち7業種で売上高が伸びたが、残りの5業種で減少する結果となった。

2 月 少年非行、半数が「見てみぬ振り」 ― 少年非行問題に関する世論調査

内閣府が発表した「少年非行問題に関する世論調査」によると、喫煙などの不良行為をしている少年を見つけた場合、20歳以上の半数が見てみぬ振りをすると答えたことが分かった。

この調査は、昨年11月に全国の20歳以上の3,000人と13歳から19歳の少年2,000人を対象に実施したもので、20歳以上の調査対象者の49.8%が「注意したいが見てみぬ振りをする」と答え、「喫煙などの不良行為であればやむを得ないので放っておく」と答えた15.7%を加えると、3分の2がかかわりたくないと考えていることが分かった。一方、「注意する」と答えたのは16.3%となっており、その他「学校などに連絡する」7.0%、「警察官に連絡する」4.9%などとなっている。20歳未満の調査対象者でも「注意したいが見てみぬ振りをする」と答えたのは40.5%と最も多い結果となった。

また、非行を招く社会環境として何が問題か（複数回答）と尋ねたのに対し、20歳以上では「テレホンクラブ・ツーショットダイヤル・出会い系サイトなどの氾濫」（48.5%）、「携帯電話の普及」（44.2%）などを挙げているのに対し、20歳未満では「少年でも簡単に刃物などを手に入れられる環境である」を挙げたものが最も多く41.6%だった。